

第4回狛江市基本計画策定第二分科会会議録

- 1 日 時 令和元年7月22日(月)午後7時～8時46分
- 2 場 所 狛江市防災センター3階 302会議室
- 3 出席者 委員長 杉浦 浩
副委員長 富永 和身 副委員長 馬場 健司
委 員 五十嵐 秀司 委 員 成井 篤
委 員 後藤 千尋 委 員 清水 満
委 員 橋本 研 委 員 平山 達郎
事務局 池田企画調整担当主任 佐々木企画調整担当主任
- 4 欠席者 副委員長 五十嵐 太一
- 5 議 題 1. 施策の現状と課題について
(3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち)
(7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち)

2. その他

6 会議概要

議題1 施策の現状と課題について

- (3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち)
- (7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち)

～事務局より説明～

委員長 体系図が固まれば、あとは表現の話になってくると思うので、本日は体系図を固めるところまでいきたいと考えている。

それでは、3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」について御議論いただきたい。

五十嵐秀委員 3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」については、非常に広い概念を4つの要素に分けている。現行計画もこれに近い形になっているのか。

事務局 現行計画でいうと、市民生活という分野があって、その中には地域振興に加えて、生涯学習や防災・防犯も入っており、区分け自体が今回と違っている。

五十嵐秀委員 あまり明確に区分けをしてしまうと、縦割りになってしまい、横断的な取組がなされていないように見えてしまうのではないかと。

事務局 御意見のとおり、横断的な体制での取組というのは常に求められているが、

それぞれの分野で分けて記載した方が、計画としては見やすいと思っている。ただし、文言等の中では横断的な体制で取り組んでいくというのは見えるようにしたいと考えている。

委員長 他の分野の施策と関連性がある場合、アスタリスク等をつけて、お互いに関連性があるということを見えるようにすれば良いのではないか。

事務局 実際の記載に当たっては、検討させていただく。

委員長 体系図を見ると、他の項目の名称に比べて、①「狛江の魅力」が異色であるように思う。これは、事務局として何か意図があるのか

事務局 ①「狛江の魅力」については、観光やシティセールスといった言葉で置き換えることもできると思うが、基本構想に、「狛江ならではの」や「魅力」という言葉が記載してあることから、狛江の独自性や強みを強調していくという想いを込めて、狛江の魅力とさせていただいた。

清水委員 狛江の魅力、活用、発信といった文言が、目指すまちの姿の中にも使われていれば、構成としては問題ないのではないか。

また、全体に言えることだが、目指すまちの姿の文章に違和感があるように思う。もっとポジティブな、ワクワクするような文章にできないか。その2点をもう少し工夫できれば、全体の流れとしては違和感がなくなるように思う。また、目指すまちの姿が冒頭にきているが、構成としてはこれで良いのか。まず冒頭に現状や課題があって、その次に施策の方向性がある、それによりこのようなまちになっていくという構成の方が良いのではないか。

五十嵐委員 清水委員がおっしゃったような構成は、ストーリーとしては理解しやすいが、一方、現状を打破できないとも言われている。まず理想があって、その理想とのギャップを次に書いて、そのギャップをどうやって解決するかという構成が、昨今の計画のトレンドになっている。

委員長 目指すまちの姿について、どうすれば魅力的になるという方法論ではなく、バラ色の未来像を書いた方が、市民に響く基本計画になるのではないか。

清水委員 「目指すまちの姿」という言葉を削除することは可能か。

事務局 他の分科会にも影響する内容であるため、この場で決定するのは難しい。

富永委員 ①「狛江の魅力」について、私は、どうしても市外の人が狛江にどんどん訪れるようになるとは思わない。そのためにいろいろ施策、魅力をつくるよりは、もっと市民が楽しめるようなイベントを企画したり、情報を発信したりした方が良いと思う。

事務局 花火大会や市民まつり等イベントは充実しているが、それ以外で魅力的なものは確立できていないのが現状だが、やはり、市外の方にも訪れていただくことが理想であると考えている。

成井委員 市外の方が市の発信するコンテンツに興味を持って、市を訪れていただい

た方が、より宣伝にはなると思う。

委員 長 目指すまちの姿として、どちらに重きを置くかではないか。多くの人が狛江を訪れるような施策を打ち出すのか、それとも、市民が愛着を持って住んでいただいたり、定住につながるような取組を進めるのか。目指すまちの姿は、そういった点を明確にしておいた方が良い。

後藤委員 3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」という分野の範囲が広すぎるのではないかと思う。

委員 長 ブレイクダウンする意味でも、狛江独自の表現を打ち出していかねばならない。どこのまちでも通用するような表現では、市民は納得しない。また、③「商工業」について、狛江には商業空間が乏しいのが現状である。そういった現状をやはり記載しておいた方が良いと思う。

事務局 こういった危機感を共有するということは必要なことだと思うため、そのように文言修正をさせていただく。

委員 長 生活空間における商店街というのは、多くの自治体でも衰退し、商店が駅周辺に集約されてきている。しかしながら、狛江市においては商業施設を含めた駅周辺の「拠点化」に課題を有していると思うため、7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」において、駅周辺の拠点化・整備について記載していただきたいと思う。次に、「7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち」に移らせていただく。

～事務局説明～

五十嵐委員 この分野も、非常に施策が多岐にわたる分野であると思うが、例えば都市計画道路の整備等は、行政が粛々と進めることだと思うが、そのような内容も基本計画に盛り込むのか。現行の計画にもそういった内容は入っているのか。

事務局 現行計画についても、例えば「水道道路の安全確保」は重点プロジェクトに位置付けられており、このような内容も含めて基本計画には盛り込んでいく予定である。

五十嵐委員 用地取得等も、粛々と進めていくことのように思うが、計画にはどのように記載するつもりか。

事務局 用地取得については、丁寧に説明をし、市民に納得してもらいながら進めていく必要があるため、そのような記載になるかと思う。

委員 長 各路線の名称は記載する予定か。

事務局 優先的な路線については名称も入れた形としたい。

成井委員 体系図について、「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」という分野で

あるにもかかわらず、市街地整備や道路・交通といった項目が冒頭にきているが、自然等に関する項目を冒頭に持ってきて、その後に市街地整備といった内容があった方が自然な気がする。

事務局 御指摘のとおり、修正させていただく。

成井委員 ⑤「ごみ・リサイクル」について、クリーンセンター多摩川は、狛江市だけではなくて4市合同の施設のようなのだが、この部分については、狛江市だけで論じる部分ではないと思う。もし記載するのであれば、現状このような状況で、施策の実施に当たっては、他市との議論・連携が必要だという丁寧な説明が必要だと感じた。

五十嵐秀委員 ⑥「下水道」について、現状と課題に豪雨や地震対策等についての記載があるが、近年の豪雨はかなりの脅威だと思う。

事務局 集中豪雨に関しては、今まで数十年に一度単位の豪雨を想定して、ハザードマップというのを策定し、浸水エリアを定めていた。しかしながら、この数年間で、数十年に一度規模の豪雨が何度もあった。そのような事実を受け、国で新たにハザードマップを作成したため、市では、それを基に、令和2年度までに新たなハザードマップを作成する予定である。

事務局 この話は、適応策の問題でもある。④「生活環境」に、「『緩和策』に加えて、『適応策』についても検討・推進していく必要がある」という記載があるが、今五十嵐委員がおっしゃったような気候変動への対応は、市が単独でできることは限られていると思うが、どこかでニュアンスは出していくべきではないかと考える

五十嵐秀委員 やはり、東京都や国との連携がより一層求められるのだろう。

委員長 この部分については、もう少し危機意識を書き込んだ方が良いのかもしれない。

富永委員 ⑤「ごみ・リサイクル」について、容器包装プラスチックの廃棄物処理の仕組みを変更する必要があるとの記載があるが、どう変える必要があるのかを記載した方が良いと思う。

事務局 確認して、次回までに対応する。

清水委員 先程、この分野については行政が粛々と進めていく内容が多いという話があったが、そのような記載に終始しないようにするためにも、目指すまちな姿にでも良いので、誰もが安心・快適に暮らせているというニュアンスを記載する必要があると考える。

事務局 行政目線と受け取られない文章とするよう、今一度整理させていただく。

清水委員 文章としては納得性があるが、「7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち」を実現するためには、もう一步踏み込んだ書き込みが必要な気がしたため、意見させていただいた。

馬場委員 今回の御指摘は、行政がこういうことをしますという書き方になっているからだと思う。もちろん、行政計画なので、そうなっても仕方がないと思うが、この指摘を踏まえて、どこかに生活者の視点から見た意見等を入れても良いのではないかと思った。

また、③「自然環境・公園」の生物多様性については、現在環境政策課で計画を策定中ということもあると思うが、行政の事情を記載しただけの文章になっている。環境政策課での議論が進めば、もう少し中身が見えてくると思うので、記載内容を調整していただきたいと思う。また、④「生活環境」の「適応策」について、多分これだと市民には理解されないと思うので、ゲリラ豪雨といった例示を用いて記載した方が、分かりやすい文章になると思う。また、エネルギーの地産地消や水素エネルギーについて記載されているが、この2つをどこまでやるのかというのは、環境政策課と協議をしていただきたい。

最後にもう1点。第2回分科会において、自転車利用やサイクリングに関する話題が出ていたと思うが、それを低炭素化に向けた施策にも関連付けることができれば良いのではないかと思った。もちろん、自転車施策等を市でこれから実施していくというのが前提の話ではあるが。

五十嵐秀委員 ③「自然環境・公園」について、自然と共生する、交流するといったことが今後大事になってくるのかと思う。水辺の楽校との連携を強化することで、自然との触れ合いを増やして、それによって自然に対する心を育てるということができれば良いと思うので、そういったニュアンスも入れていただきたい。

事務局 その辺りの表現については、本日多数の御指摘をいただいているため、持ち帰らせていただき、主管課と調整しながら、次回までに表現を改めていきたいと思う。

五十嵐秀委員 もう1点。馬場委員から話があった自転車利用について、ヨーロッパでは、低炭素社会の実現に向けた取組の1つとして、自転車利用が取り挙げられており、自転車利用者が増えていると聞いている。狛江市だけで達成できる話ではないが、一つの将来的なビジョンとして、触れても良いのかもしれないと思った。

橋本委員 ②「道路・交通」について、現在、モビリティの世界が非常に進歩してきているため、その辺を見据えた現状や課題を記載してはいかがか。例えば、こまバスの現在地をオープン化して、情報開示していくといったことができれば、高齢者に優しく、低炭素社会の実現に資する交通施策が展開できるのではないかと思った。

もう1点、⑤「ごみ・リサイクル」の中で、近年世界的な問題となってい

るマイクロプラスチックについて触れるべきだと考える。狛江市は多摩川に隣接しており、狛江市で発生したごみが多摩川に流された場合、海に流れ出てしまう。多摩川に隣接している狛江市では、多摩川統一清掃を年1回やっていると思うが、それを例えば4回やるといった、微力でも良いので、マイクロプラスチックの排出抑制に市を挙げて取り組んでいるということを明確に打ち出していくことができれば、共感する人はたくさん出てくると思うし、若者にも響くのではないかと思った。

委員長 マイクロプラスチックの話題は、確かに近年問題になっており、基本計画に記載があつてしかるべきだと思うが、入れるとしたら、④「生活環境」か⑤「ごみ・リサイクル」のどちらになるのか。

橋本委員 当然、使用を減らしていくといったもっと大きい話はこれからできると思うのだが、市民一人ひとりが日ごろからできることを記載することも重要ではないかと思う。

事務局 そういった意味でも、⑤「ごみ・リサイクル」に記載をした方が良いのかもしれない。

成井委員 私も多摩川統一清掃に何回か参加したことがあるのだが、結局、拾ったごみがどのように処分されるのかが分からなかった。マイクロプラスチックの排出抑制に、市民がどのように携わるかという意味でも、⑤「ごみ・リサイクル」に記載があつても良いと思う。

五十嵐秀委員 どの施策に入れるかという議論になりすぎると、縦割りになってしまうので、いくつかの施策にまたがっているという記載にした方が、計画に広がりが出て良いように思う。

委員長 今挙がった意見も参考にしながら、マイクロプラスチックの問題についてはどの施策にどのように記載するのかを、事務局において検討していただきたい。

清水委員 目指すまちの姿の目標年次が令和6年度となっているが、1年後にどうなっているかもわからない現状において、6年後にこの文章を読んで、全く的外れで笑われるような文章になっていないかを改めて確認する必要がある。考え方によっては、この令和6年度というのは、削除した方が良いのではないかと思う。

委員長 確かに、令和6年度に本当にこの目指すまちの姿になっているかという視点で見ると、達成が難しそうなものがいくつかあるように思う。一方、そうは言っても、50年後を見据えるというのはなかなか難しい。行政計画全般に言えることだが、10年計画の後半はほとんど当たらないことが多いように思う。しかしながら、そういった目標とするものを捉えることによって、目標と現状のブレを最小限に抑えるという利点があるのだと思う。

五十嵐秀委員 5年後、10年後と目標年次を決めてしまうと、議論が縛られてしまうような気がする。基本構想にあわせて目指すまちの姿は10年後という設定にして、基本計画はそのための最初の5年間の計画という整理でも良いのではないか。

事務局 清水委員の意見は、的をえているように思う。例えば、①「市街地整備」の目指すまちの姿に、令和6年度になっているかということ、現実的ではないように思う。一方で、5年後に照準を合わせた目指すまちの姿としてしまうと、この施策は簡単に進むものではないため、現実的な、おもしろみに欠ける文章になってしまう。いずれにしても、この部分については整理が必要であると考えている。

委員長 基本構想の期間は10年間で、それを基本計画で前期と後期に分ける。そう考えると、5年後ではなく、せめて10年後にしないと辻褃が合わないのではないか。これは、本分科会のみならず、他の分科会の資料もこうなっているのか。

事務局 共通でこのようになっている。

委員長 そうであれば、今一度事務局で議論をした方が良いと思う。あまり近い将来を見据えても仕方がない。

五十嵐秀委員 目標年次は書いてあっても良いとは思うのだが、少なくとも基本構想の期間は10年間であって、10年後を見据えた上で前期の5年間の計画を策定していくわけなので、目標を5年後としてしまうと、窮屈な議論になってしまうのではないか。

事務局 全分科会に共通している議論であるため、本件については、一度持ち帰らせていただく。

五十嵐秀委員 最後にもう一点、③「商工業」の分野について、他の委員も再三指摘をしているが、文章が行政・事業者側の視点になっている。市民意識調査においても、狛江市が住みにくいと回答した方の理由の第1位が「お店が充実していないまちだから」という結果になっており、それを解決するための方策とともに、市民目線も盛り込んだ文章としていただきたい。

委員長 冒頭申し上げたとおり、本日は施策体系を固めたいと考えている。様々な議論をいただいたが、施策体系についてはあまり意見がなかったということで、概ね承認いただいているのだと思うが、万が一意見がある場合、今週中に事務局まで意見を提出するというところでよろしいか。

～一同了承～

議題2 その他

委員長　その他特に意見等なければ、第４回狛江市基本計画策定第二分科会を終了する。